

今治市教育委員会教育長 様

今治市立桜井小学校長 野間 宏美

自己評価について、下記のとおり報告します。

記

1 学校の教育目標の達成状況(概要)

校訓「強く 正しく 美しく」のもと、教育目標「よく学び、心豊かな児童の育成」の達成を目指し、努めてきた。学習規律を確立し、主体的・対話的で深い学びにより学力の向上を図り、授業改善や児童の良さを伸ばす教育活動に取り組んできた。

(1) 確かな学力の育成（学習の取組・姿勢、学習の定着、読書） (%)

	できている	だいたいできている	あまりできていない	できていない
児 童	37	40	17	6
保護者	17	46	27	10
教職員	5	61	34	0

(2) 豊かな心の育成（規則の尊重、挨拶・言葉遣い、思いやり） (%)

	できている	だいたいできている	あまりできていない	できていない
児 童	62	29	7	2
保護者	31	57	10	2
教職員	14	52	32	2

(3) 健やかな体の育成（体力の向上、望ましい食習慣、自主・自律） (%)

	できている	だいたいできている	あまりできていない	できていない
児 童	56	28	12	4
保護者	35	47	14	4
教職員	21	62	17	0

2 主な取組の課題と改善

(1) 確かな学力の育成について

「あまりできていない」「できていない」と否定的に回答した割合が、保護者 37%、教職員 34%と、児童の自己評価に比べるとやや高くなっている。基礎学力（四則計算・漢字）の定着を最優先課題として、朝のドリル学習やタブレット端末を活用した振り返り学習の充実を図るとともに、家庭学習の習慣化に向けて、「家庭学習がんばり週間」の結果等を家庭へ知らせ、学習の取組について啓発していきたい。また、読書離れが心配されるため、図書ボランティアの方と学級担任による読み聞かせ活動、学級文庫の精選や図書室利用の積極的な呼び掛け、電子図書館（今治市立図書館）の活用などを通して、学校全体で読書の奨励を行っていきたい。

(2) 豊かな心の育成について

肯定的に回答した割合が、児童 91%、保護者 88%と高くなっている。反面、気持ちの良い挨拶や場に応じた正しい言葉遣いできていないと感じている教職員もいる。そこで、まず児童の模範となる教職員が積極的に挨拶を励行することを意識統一した。その上で、場に応じた挨拶や言葉遣いの指導、会釈の習慣化などを通して、気持ちの良い桜井っ子の育成を目指したい。また、できている児童を積極的に褒めることで、児童の意識向上に努めたい。

(3) 健やかな体の育成について

肯定的に回答した割合が、児童84%、保護者82%、教職員83%と高くなっている。課外活動（水泳、陸上、駅伝）や業間の体力づくり運動（持久走やなわとび）で体力の向上に取り組むことができた。望ましい食習慣については、昨年度のアンケート結果より肯定的な割合が増えており、家庭と連携した食育指導の成果が上がっている。しかし、偏食が目立つ児童も一定数おり、引き続き、栄養教諭や養護教諭と連携を取りながら、学級活動や体育科（保健領域）、家庭科等の時間に食育指導を行っていきたい。

3 その他

保護者の学校への評価は、概ね良好である。今後も、教職員一人一人の良さを発揮しつつ組織力向上を図り、教育活動の充実に真摯に取り組んでいきたい。また、若年教員の支援にも注力し、安心して業務を行える環境を整えていきたい。業務改善については、Googleクラスルームの積極的活用（職員会資料の電子化、教材の共有）、全課外活動16時30分終了、業務の分担・協力など全教職員で意識統一をし、取り組んでいる。